

大学の世界展開力強化事業 構想概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくと予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN 大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、サマースクール、交換留学、ダブルディグリープログラムからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

① 単位の相互認定を伴う交換留学の実施

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUNに加盟している大学の中で、実施に向けた合意が整った大学との間で、修士課程のダブルディグリープログラムを実施する。

③ サマースクールの実施

修士課程での交換留学やダブルディグリープログラムへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクールを開催する。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

▼(2011年3月 AUN-KU Workshop の参加者)



① 交換留学プログラムについて

AUN加盟大学との間で、修士課程を中心に単位相互認定を行う交換留学やダブルディグリープログラムを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

AUNの間では、既に包括的な交流協定を締結しており、その枠組みを活用して「人間の安全保障開発」をテーマとした国際シンポジウムを開催するなどして、構想の実施に向けた協力体制を整えている。

▼(Educational Forumに日本代表として参加した本学からの参加学生)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

AUN加盟大学が開催するサマースクールに学生を派遣し、その参加者を中心に、交換留学やダブルディグリープログラムによる留学希望者を募る。

○ 外国人留学生の受入

サマースクールを開催し、AUN加盟大学から参加者を受け入れる。そのプログラムに参加した学生を中心に、交換留学やダブルディグリープログラムでの留学希望者を募る。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	15	30	43	51	56
学生の受入	15	30	53	61	61

(注)申請時の計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにする。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

○ 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行う。このほか、留学生に対する相談体制や宿舎への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 情報提供サイトの開設

本構想の全容が分かるウェブサイトを開設し、教育内容、アカデミックカレンダー、学生募集など各種の関連情報を広く提供する。また、その情報に準じたパンフレットを作成し、広く頒布することで、成果を広く普及させる。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくると予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、サマースクール、交換留学、ダブルディグリープログラムからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈タイ・インタノン山地林での実習風景〉

① 単位の相互認定を伴う交換留学の実施

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUNに加盟している大学の中で、実施に向けた合意が整った大学との間で、修士課程のダブルディグリープログラムを実施する。

③ サマースクールの実施

修士課程での交換留学やダブルディグリープログラムへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクールを開催する。平成24年度は、タイ・キングモンクット工科大学及びチェンマイ大学(2月28日～3月12日)と、同カセサート大学(3月11日～3月24日)で実施し、合計30名の学部学生を派遣した。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(コンソーシアム設立会議での協定書締結)



① 交換留学プログラムについて

AUN加盟大学との間で、修士課程を中心に単位相互認定を行う交換留学やダブルディグリープログラムを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

AUNの間では、既に包括的な交流協定を締結しており、その枠組みを活用して「人間の安全保障開発」をテーマとした国際シンポジウムを開催するなどして、構想の実施に向けた協力体制を整えている。平成24年度は、ダブルディグリープログラム実施予定の個々の大学との協議を行うと同時に、コンソーシアム設立会議での全体協議を行い、協働事業実施に関する協定書を締結した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

① 日本人学生の派遣

AUN加盟大学が開催するサマースクールに学生を派遣し、その参加者を中心に、交換留学やダブルディグリープログラムによる留学希望者を募る。平成25年度は、8月にインドネシア・ガジャマダ大学におけるサマースクールに学生を派遣する。

② 外国人留学生の受入れ

サマースクールを開催し、AUN加盟大学から参加者を受け入れる。そのプログラムに参加した学生を中心に、交換留学やダブルディグリープログラムでの留学希望者を募る。平成25年度は、5月、12月にサマースクールを開催し留学生を受け入れる。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	30	30	43	51	56
学生の受入	0	30	53	61	61

注)H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにする。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行う。このほか、留学生に対する相談体制や宿舍への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

① 情報提供サイトの開設

本構想の全容が分かるウェブサイトを開設し、教育内容、アカデミックカレンダー、学生募集など各種の関連情報を広く提供する。また、その情報に準じたパンフレットを作成し、広く頒布することで、成果を広く普及させる。

URL:<http://www.hsd.cpier.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>

大学の世界展開力強化事業 取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくると予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN 大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、ダブルディグリープログラム、シングルディグリープログラム、サマースクールからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

第1回KU-AUN運営協議会をバンコクにて開催(2013年11月)



① 単位互換可能な講義群の開発

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUN加盟コア大学の5校およびカセサート大学(AUN非加盟)との間で、修士課程のダブルディグリープログラム(以下DDP)を実施し、相互交流を図る。

③ 共同指導型シングルディグリープログラムの実施

AUN加盟大学のうちダブルディグリーを実施しない25大学の修士学生を対象に、共同指導型シングルディグリープログラム(以下SDP)を実施し、学生を受け入れる。

④ サマースクールの実施

修士課程でのDDPやSDPへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクール(以下SS)を開催し、相互交流を図る。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

インドネシアでのサマースクール(2013年8月)



① 交流プログラムについて

AUN加盟大学およびカセサート大学(以下AUN加盟大学等)との間で、修士課程のDDP、SDP、および学部学生向けのSSを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

AUNとの間では、既に包括的な交流協定を締結しており、構想の実施に向けた協力体制を整えている。平成25年度は、農学分野でインドネシア・ガジャマダ大学と、エネルギー分野でインドネシア・バンドン工科大学およびマレーシア・マラヤ大学とダブルディグリープログラムを開始した。また、公衆衛生分野のダブルディグリー実施に向けて、マラヤ大学およびタイ・チュラロンコン大学と協定を締結し、平成26年度から実施する。また、農学分野、エネルギー分野において平成26年度からの実施をめざしシンガポール国立大学との間で協議を進めている。さらに、シングルディグリープログラム参加学生の募集と選抜を実施し、これも平成26年度から実施する。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

① 日本人学生の派遣

AUN加盟大学等にDDP、SSで学生を派遣する。平成26年度は、DDPではマラヤ大学、ガジャマダ大学等、SSでは8月にラオス国立大学とベトナム国家大学ホーチミン市に学生を派遣する。

② 外国人留学生の受入れ

AUN加盟大学からDDP、SDP、SSで学生を受け入れる。平成26年度は、DDPではガジャマダ大学等、SDPではタイ・チェンマイ大学等、SSでは5月にカセサート大学の学生を受け入れる。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	30	18	46	54	59
学生の受入	0	49	56	64	64

注)H24・H25は実績、H26以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにする。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行う。このほか、留学生に対する相談体制や宿舎への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

① 情報提供サイトの開設

本構想の全容が分かるウェブサイトを開設し、教育内容、アカデミックカレンダー、学生募集など各種の関連情報を広く提供する。また、その情報に準じたパンフレットを作成し、広く頒布することで、成果を広く普及させる。

URL:<http://www.hsd.cpier.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくると予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、ダブルディグリープログラム、シングルディグリープログラム、サマースクールからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

① 単位互換可能な講義群の開発

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUN加盟コア大学の5校およびカセサート大学(AUN非加盟)との間で、修士課程のダブルディグリープログラム(以下DDP)を実施し、相互交流を図る。

③ 共同指導型シングルディグリープログラムの実施

AUN加盟大学のうちダブルディグリーを実施しない25大学の修士学生を対象に、共同指導型シングルディグリープログラム(以下SDP)を実施し、学生を受け入れる。

④ サマースクールの実施

修士課程でのDDPやSDPへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクール(以下SS)を開催し、相互交流を図る。

(SS受入—日本文化研修)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(SS派遣—ホーチミンにて)



① 交流プログラムについて

AUN加盟大学およびカセサート大学(以下AUN加盟大学等)との間で、修士課程のDDP、SDP、および学部学生向けのSSを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

平成25年度までに、農学分野でインドネシア・ガジャマダ大学(UGM)と、エネルギー分野でインドネシア・バンドン工科大学(ITB)およびマレーシア・マラヤ大学(UM)とダブルディグリープログラムを開始した。平成26年度には、農学分野でタイ・カセサート大学と、公衆衛生分野でUMおよびタイ・チュラロンコン大学(CU)とダブルディグリープログラムを開始した。また、農学分野、エネルギー分野において平成27年度からの実施をめざしシンガポール国立大学との間で協議を進めている。さらに、シングルディグリープログラム参加学生の募集・選抜を行い、平成26年度はカントー大学、チェンマイ大学等から5名の受入を実施した。平成27年度には既にフィリピン大学等から3名の受入を決定し、引き続き参加学生を募集している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

① 日本人学生の派遣

AUN加盟大学等にDDP、SSで学生を派遣する。平成27年度は、DDPではマラヤ大学、ガジャマダ大学、カセサート大学、SSでは8月チェンマイ大学に学生を派遣する。

② 外国人留学生の受入れ

AUN加盟大学からDDP、SDP、SSで学生を受け入れる。平成27年度は、DDPではUGM、UM、CU、カセサート大学、SDPではフィリピン大学等、SSでは5月にカセサート大学、平成28年1月にAUN加盟大学の学生を受け入れる。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	30	18	31	54	59
学生の受入	0	49	43	65	65

注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにする。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行う。このほか、留学生に対する相談体制や宿舍への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用する。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

① 協定の締結

SDP参加学生の受入に際して、本学農学研究科がカントー大学と部局間協定を締結した。

② 情報の公開・成果の普及

人間の安全保障開発連携教育ユニットのウェブサイトとフェイスブックで学生募集を含む情報公開と成果報告を行っている。成果報告は本学のウェブサイトにて、学生募集は本学ASEANセンターおよびAUN事務局のウェブサイトとフェイスブックでも公開している。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくると予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、ダブルディグリープログラム、シングルディグリープログラム、サマースクールからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

① 単位互換可能な講義群の開発

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUN加盟コア大学の5校およびカセサート大学(AUN非加盟)との間で、修士課程のダブルディグリープログラム(以下DDP)を実施し、相互交流を図る。

③ 共同指導型シングルディグリープログラムの実施

ダブルディグリーを実施する5大学を含むAUN加盟大学全30大学の修士学生を対象に、共同指導型シングルディグリープログラム(以下SDP)を実施し、学生を受け入れる。

④ サマースクールの実施

修士課程でのDDPやSDPへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクール(以下SS)を開催し、相互交流を図る。

(SS受入—日本文化研修)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(SS派遣—ホーチミンにて)



① 交流プログラムについて

AUN加盟大学およびカセサート大学(以下AUN加盟大学等)との間で、修士課程のDDP、SDP、および学部学生向けのSSを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

平成25年度までに、農学分野でインドネシア・ガジャマダ大学(UGM)と、エネルギー分野でインドネシア・バンドン工科大学(ITB)およびマレーシア・マラヤ大学(UM)とDDPを開始した。平成26年度には、農学分野でタイ・カセサート大学と、公衆衛生分野でUMおよびタイ・チュラロンコン大学(CU)とDDPを開始した。平成27年度には、エネルギー分野においてCUとのDDP開始に向け学生を派遣した。農学分野では、ITBとDDPの開始に向けて交渉を行っている。さらに、SDP参加学生の募集・選抜を行い、平成26年度に5名、平成27年度にも5名を受け入れた。引き続き、平成28年度の参加学生を募集している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

① 日本人学生の派遣

平成27年度、UGM、UM、CU、カセサート大学にDDP参加学生を、チェンマイ大学とカセサート大学にSS参加学生を派遣した。平成28年度には、DDPではCU、UM、カセサート大学へ、SSでは8月ヤンゴン大学とカンボジア工科大学、9月にカセサート大学に学生を派遣する。

② 外国人留学生の受入れ

AUN加盟大学からDDP、SDP、SSで学生を受け入れる。平成28年度は、DDPではUGM、UM、CU、カセサート大学、SSでは6月にカセサート大学、平成29年1月にAUN加盟大学の学生を受け入れる。SDP参加学生の募集も行っている。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	30	18	31	36	59
学生の受入	0	49	43	47	65

注)H24-H27は実績、H28は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにしている。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行っている。このほか、留学生に対する相談体制や宿舍への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用している。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

① 協定の締結 本学エネルギー科学研究科がチュラロンコン大学と「エネルギーと環境」分野でのDDPを開始するため、プログラム・ディスクリプションの締結に向けて交渉を行っている。

② 情報の公開・成果の普及

人間の安全保障開発連携教育ユニットのウェブサイトとフェイスブックで学生募集を含む情報公開と成果報告を行っている。成果報告は本学のウェブサイトにて、学生募集は本学ASEANセンターおよびAUN事務局のウェブサイトとフェイスブックでも公開している。

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくと予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、ダブルディグリープログラム、シングルディグリープログラム、サマースクールからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

① 単位互換可能な講義群の開発

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUN加盟コア大学の5校およびカセサート大学(AUN非加盟)との間で、修士課程のダブルディグリープログラム(以下DDP)を実施し、相互交流を図る。

③ 共同指導型シングルディグリープログラムの実施

ダブルディグリーを実施する5大学を含むAUN加盟大学全30大学の修士学生を対象に、共同指導型シングルディグリープログラム(以下SDP)を実施し、学生を受け入れる。

④ サマースクールの実施

修士課程のDDPやSDPへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクール(以下SS)を開催し、相互交流を図る。

(SS受入—日本文化研修)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(SS派遣—カンボジアにて)



① 交流プログラムについて

AUN加盟大学およびカセサート大学(以下AUN加盟大学等)との間で、修士課程のDDP、SDP、および学部生向けのSSを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

平成25年度までに、農学分野でインドネシア・ガジャマダ大学(UGM)と、エネルギー分野でインドネシア・バンドン工科大学(ITB)およびマレーシア・マラヤ大学(UM)とダブルディグリープログラムを開始した。平成26年度には、農学分野でタイ・カセサート大学と、公衆衛生分野でUMおよびタイ・チュロンコン大学(CU)とダブルディグリープログラムを開始した。平成27年度にはエネルギー分野においてCUと、平成28年度には農学分野でITBとダブルディグリープログラムを開始した。さらに、シングルディグリープログラム参加学生の募集・選抜を行い、平成26年度に5名、平成27年度に5名、平成8年度に1名を受け入れた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

① 日本人学生の派遣

平成28年度、UGM、UM、CU、カセサート大学にDDP参加学生を、ヤンゴン大学、カンボジア工科大学、カセサート大学にSS参加学生を派遣した。

② 外国人留学生の受入れ

AUN加盟大学からDDP、SDP、SSで学生を受け入れた。平成28年度は、DDPではUGM、ITB、カセサート大学、SSでは6月にカセサート大学、平成29年1月にAUN加盟大学の学生を受け入れた。SDP参加学生の受入も実施した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	30	18	31	36	29
学生の受入	0	49	43	47	50

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにしている。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行っている。このほか、留学生に対する相談体制や宿舎への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用している。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

① 協定の締結 本学エネルギー科学研究科がチュロンコン大学とプログラム・ディスクリプションを締結し、「エネルギーと環境」分野でのダブルディグリープログラムを開始した。

② 情報の公開、成果の普及

人間の安全保障開発連携教育ユニットのウェブサイトとフェイスブックで学生募集を含む情報公開と成果報告を行っている。成果報告は本学のウェブサイトにて、学生募集は本学ASEANセンターおよびAUN事務局のウェブサイトとフェイスブックでも公開している。2016年度末には、5年間の事業をまとめたFinal Reportを発行した。